



適性検査 B

(10 : 45 ~ 11 : 30)

注 意

- 1 検査開始のチャイムがなるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙の1ページから2ページに、問題が□1から□2まであります。
これとは別に解答用紙が1枚あります。
- 3 問題用紙と解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号	第	番
------	---	---

- 1 次の文章は、内田樹さんが書いた「先生はえらい」の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

子どもが母国語を学習するときのことを考えてください。

子どもは「ことば」というのが何であるかをまだ知りません。

「ぼくもそろそろ学齢期だから、日本語をちゃんと勉強しておかないとね」というような合理的判断を下した上で母国語の学習を始めた子どもはおられません。

自分にむかって語りかける母親のことばを聴いているとき、子どもはまだことばを知りません。しかし、すでにことばによるコミュニケーションの現場に引き出されています。子どもは彼が生まれる以前に成立した言語に絶対的に遅れて生まれます。言い換えれば、子どもは「すでにゲームが始まっており、そのゲームの規則を知らないままに、プレイヤーとしてゲームに参加させられる」という仕方のことばに出会うわけです。

にもかかわらず、子どもはやがて人々の語ることばの意味を一つ一つ発見してゆきます。それは、大人たちが「ことばには意味がある」ということを教えたからではありません。ある音声がなにかそれとは違うものを記号的に代理表象することができるといふ「ことばの規則」そのものを知らないままに、子どもはことばの中に投げ込まれているから、知るわけないんです。

このプロセスの驚嘆すべきところは、規則を知らないゲームをしているうちにプレイヤーがその規則を発見するという逆説のうちにあります。

まわりの人々の発する音声が意味を伝える記号であることがわかったのは、意味不明の音声について、「これは何かを伝えようとしているのではないか？」という問いを子どもが立てることができたからです。

この謎めいた音声は何かのメッセージではないのか？これらの記号の配列には何らかの規則性があるのではないか？

これがすべての学びの根源にある問いかけです。

学ぶことの全行程はこの問いを発することができるとかどうかにかかっています。

そして、「そうすること、あなたは何を伝えたいのか？」という起源の問いは問うもの自身が発する以外にはありません。誰も彼に代わって、この問いを発することはできません。

私が「学びの主体性」と呼ぶのはこのことです。

(注) 母国語 || 自分の生まれた国の言葉。

学齢期 || 小学校に入るべき年齢。

代理表象 || 代わりに表すこと。

プロセス || 物事が進行していく道筋。

逆説 || 一見正しくないように見えることが実は正しいこと。または、その逆。

(問い)

あなたは、この文章を通して、筆者が伝えたいことは何だと考えますか。また、筆者の伝えたいことに対して、あなたはどのような考えをもちましたか。次の条件にしたがって書きなさい。

(条件)

- ・この文章を通して、筆者の伝えたいことを書くこと。
- ・筆者の伝えたいことに対する自分の考えについて、これまでの経験をふり返り、具体例をあげながら書くこと。
- ・300字以上400字以内にまとめて書くこと。

2 こずえさんのクラスでは、総合的な学習の時間にポスターセッションを行い、様々な課題についてグループごとに解決策を提案します。こずえさんは、給食の食べ残しがたくさんあることが、日頃から気になっていました。そこで、世界のそれぞれの地域でどれくらいの食料が捨てられているのか、また、どれくらいの人が飢えて困っているのかについて、今後の予測を含む世界の人口の移り変わりとともに調べ、資料1～3にまとめて、食料問題についてグループで話し合いました。

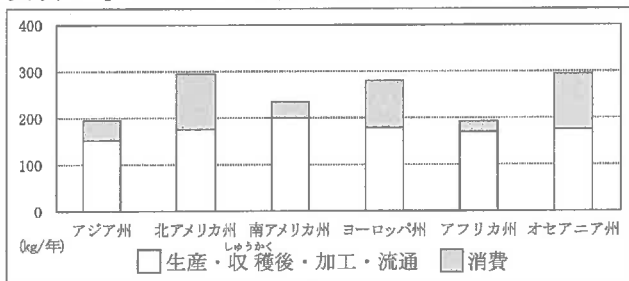
さらに、生産から消費までのそれぞれの段階で捨てられる食料の割合が地域によって異なることに興味を持ち、日本国内の加工・流通・消費段階での食品ロス※1に関連することからについてくわしく調べ、資料4・5にまとめました。また、グループの他のメンバーは、政府開発援助の様子が分かる写真を資料6として持ち寄りました。

あなたがこずえさんのグループメンバーの一人なら、食料に関してどのような課題があると考え、どのような解決策を提案しますか。資料1～6の中から、複数の資料を関連付けながら、発見した課題とその解決策を文章で書きなさい。

なお、解答用紙の所定の欄に、あなたが選んだ資料の番号を書くこと。

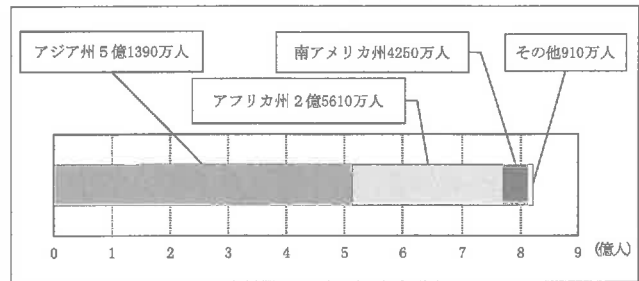
※1 食品ロス……本来食べられるのに捨てられている食料。

資料1【一人当たりの地域別段階別食料廃棄の量】(2011年)



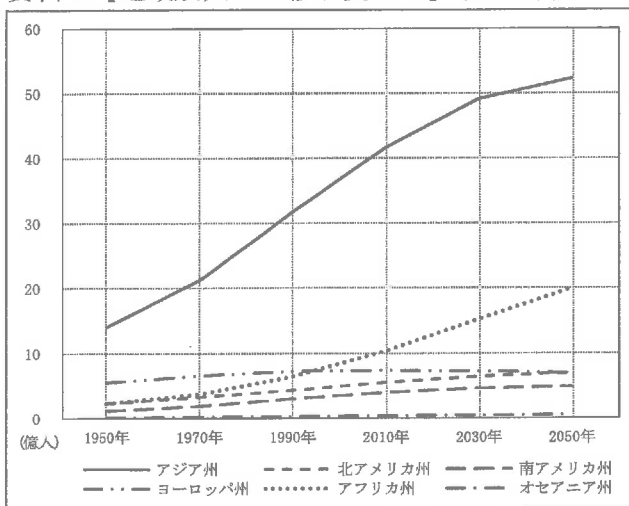
(国際農林業協働協会のホームページをもとに作成。)

資料2【地域別の飢餓人口】(2018年)



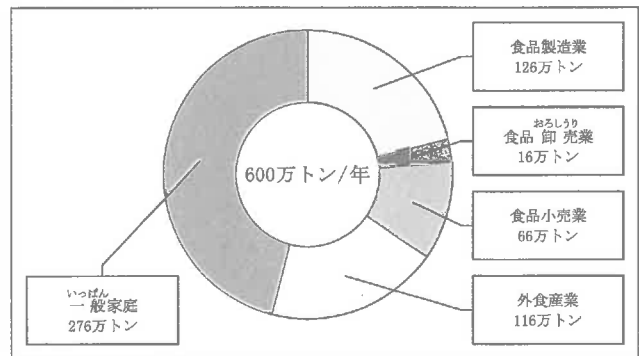
(ユニセフのホームページをもとに作成。)

資料3【地域別人口の移り変わり】(2018年)



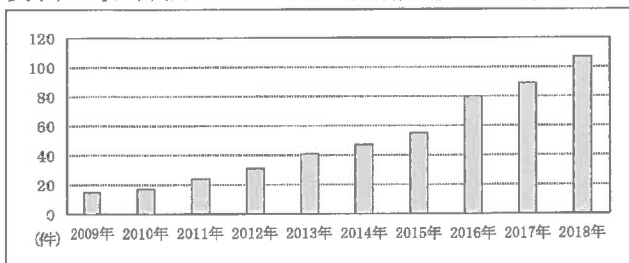
(総務省のホームページをもとに作成。)

資料4【日本の段階別食品ロスの量】(2017年)



(農林水産省のホームページをもとに作成。)

資料5【日本国内のフードバンク※2団体数の移り変わり】(2018年)



(消費者庁のホームページをもとに作成。)

資料6【アフリカ州で米作りの技術を伝える様子】(2013年)



(国際協力機構のホームページより。)

※2 フードバンク……捨てられてしまう食料品を必要とする人や団体に届ける活動をする団体。

